

## 第6章

# 都市下層民の職業と彼らの期待する職業

### 第1節 調査地区の職業構成

都市下層民は調査都市において、a) 現在、どのような職業に就業しているのか（現職）、また、都市下層民が調査都市に流入したとき、b) 最初に就業した職業（初職）と同じ職業であったのか、あるいは、職業構成に変化が生じたのだろうか。そして「高い賃金を得るために」本人の将来の職業として、c) どのような職業を希望しているのだろうか（本人希望職）。さらには、d) 息子にはどんな職業について欲しいと思い（息子に希望職）、また、e) 娘にはどのような職業について欲しいと思うのであろうか（娘に希望職）。とくに、イスラム教は女性の隔離を主張するため、トルコの都市下層民が娘に希望する職業観は、大都市から地方町という都市規模が小さくなるにつれて、興味深い変化を示すはずである。他にも、首都大都市から地方の大都市や地方町まで、都市の規模が小さくなるにつれて、この五つの職業観はどのように変化し、また、同じ都市においても中心地区と郊外地区では、どのような相違がみられるのであろうか。これらの点を検討していく。

#### (1) アンカラの職業構成

アンカラの調査地における現在の職業（現職）構成は、第Ⅱ－9表のとおりである。専門管理職4.1％、事務職8.1％であり、これに対して販売職は9.5％、サービス職は25.7％である。農業労働者はなく、製造業労働者は

16.2%，その他製造業（未熟練労働者）29.7%である（他に、軍人などが1.4%あって、計31.1%となる。老齢など労働不能なもの2.7%）。主要6業種に限り図示すると、第Ⅱ-12図ができる。アンカラの地区は、他地区に比較して専門管理職、事務職、サービス職で高く、逆に、販売職、とくに製造業就業者で低い職業構成を示す（第Ⅱ-12図-1、折れ線1参照）。

アンカラ市全体の職業構成はすでに述べたように（第Ⅱ部第2章参照）、首都のために専門管理職は17.7%（うち専門職14.5%）と著しく多く、事務職も15.5%を占める。次いで、販売職とサービス職が8.7%と13.3%であり、農業従事者1.2%、製造業従事者34.7%、不明層0.1%である。アンカラ市全体の職業構成と比較して、この不法占拠地区、チャルスカンラル地区の職業構成は、(i)他地区に比較して多い職業の専門管理職と事務職の合計（12地区のうち4位、12.2%）でも、市全体の水準（33.2%）のほぼ3分の1ほどに限られ、このうち事務職（8.1%）も市全体の2分の1ほどにすぎない。評価の高い職業はこの地域には少ないのである。しかし、サービス職（12地区のうち2位、25.7%）は市全体の13.1%をはるかに上回る。(ii)他地区に比較し少なかった販売職（12地区のうち7位、9.5%）は市全体の水準（8.7%）をわずかに上回るけれども、製造業就業者（16.2%）は市全体の水準（34.7%）の半分以下である。

#### (iv) 地方大都市ガジアンテップの職業構成

地方大都市における中心地区と郊外地区の現職構成を（第Ⅱ-9表、第Ⅱ-12図-1、折れ線2、3）、アンカラとの比較で整理する。

a) アンカラよりも構成比率の低い職業（折れ線2、3が1より下）。専門管理職と事務職はともにアンカラより少なく（双方の合計、二つの地区で5.2%、3.4%、アンカラ12.2%、以下同じ）、サービス職は著しく少ない（12.8%、10.3%、アンカラ25.7%）。その他雑業層も少ない（17.9%、24.1%、アンカラ31.1%）。

b) アンカラよりも構成比率の高い職業（折れ線2、3が1より上）。その他雑業層と異なり、製造業は二つの地区で圧倒的に多くて就業者の3分の1を占

める (35.9%, 34.5%, アンカラ 16.2%)。また、販売職もかなり多く (17.9%, 13.8%, アンカラ 9.5%), 農業従事者も多い (2.6%, 3.4%, アンカラ 0%)。これが、伝統的工業の地方大都市と首都における職業構成の相違である。

ガジアンテップの中心地区と郊外地区を比較すれば、中心地区には専門管理職と事務職、販売職が多く、郊外地区はその他雑業層が多いといえよう。

#### (ハ) 新興工業中大都市メルシンの職業構成

新興工業都市であるメルシンにおいて、郊外 (農村風) 地区のセルジュク地区、準中心地区シテラル地区、東南部からの流入者の多いデミルタシュ地区の3地区は、第Ⅱ-12図-1に示されるように、アンカラに比較して、製造業就業者で大いに高く、その他雑業層では低い。

a) アンカラよりも構成比率の低い職業 (折れ線4, 5, 6が1より下)。専門管理職と事務職 (双方の合計) は、とくに郊外 (農村風) 地区と準中心地区で低い (三つの地区で2.9%, 3.3%, 11.4%, アンカラ 12.2%)。その他雑業層でも大幅に低い (14.3%, 10.0%, 20.0%, アンカラ 31.1%)。

b) アンカラよりも構成比率の高い職業 (折れ線4, 5, 6が1より上)。販売職、とくに準中心地区と東南部出身者の多いデミルタシュ地区ではとくに高く、伝統的工業都市ガジアンテップの中心地区に近い (11.4%, 16.7%, 17.1%, アンカラ 9.5%)。製造業就業者は新興工業都市メルシンの3地区で圧倒的に多く、アンカラはもちろん、伝統的工業都市ガジアンテップの2地区よりも高い (45.7%, 36.7%, 42.9%, アンカラ 16.2%)。

c) アンカラと比較して構成比率が地区ごとに相違する職種。サービス職では郊外 (農村風) 地区でアンカラと等しく、準中心地区で高いけれども、東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区では著しく低い (25.7%, 33.3%, 8.6%, アンカラ 25.7%)。

メルシンの三つの地区を比較すれば、郊外 (農村風) 地区セルジュク地区は製造業とサービス職に集中する地区であり、準中心地区シテラル地区はサービス職と販売職で半分を占め、製造業も多い地区である。また、デミルタ

シュ地区は製造業、その他雑業層、販売職が多く、しかも、専門管理職と事務職も多い地区である。

メルシン市全体の就業構造では、専門管理職 10.7 %, 事務職 8.8 %, 販売職 11.6 %, サービス職 10.4 %, 農業労働者 3.4 %, 製造業就業者 34.7 % であり、その他就業者は 0.3 % である。

#### (二) 中都市トラブゾンの職業構成

中都市トラブゾンにおいては、中心地区ザファール地区、豊かな中心地区エセンテッペ地区、郊外地区バフチェジック地区は、第Ⅱ－12 図－2 に示されるように、中心 2 地区（折れ線 7, 8）は類似するが郊外地区（折れ線 9）は異なる職業構成をとる。

a) アンカラよりも構成比率が、中心 2 地区において低い職業。専門管理職と事務職（双方の計）は、地方大都市ガジアンテッペより高いけれども、アンカラよりは低い。ただし、郊外バフチェジック地区ではアンカラよりも高い（三つの地区で 6.8 %, 8.6 %, 28.5 %, アンカラ 12.2 %）。サービス職は、地方大都市ガジアンテッペよりも高いけれども、三つの地区において一様にアンカラより低い（17.2 %, 22.9 %, 20.0 %, アンカラ 25.7 %）。その他雑業層も低い。

b) アンカラよりも構成比率が、中心 2 地区において高い職業。販売職は、とくに豊かな中心地区エセンテッペ地区ではガジアンテッペの高い中心地区とほぼ等しいほど高い。ただし、郊外バフチェジック地区では著しく低い（13.8, 17.1 %, 2.9 %, アンカラ 9.5 %）。製造業も伝統的工業大都市ガジアンテッペ 2 地区よりもやや低いが、アンカラよりも高い。ただし、郊外バフチェジック地区ではアンカラよりも低い（34.5 %, 31.4 %, 14.3 %, アンカラ 16.2 %）。なお、農業就業者は中心 2 地区には存在しないけれども、郊外バフチェジック地区には存在する（5.7 %）。

#### (ホ) 小都市ネブシェヒルの職業構成

小都市ネブシェヒルの 350 エブレル地区の職業構成は、第Ⅱ－12 図－2（折れ線 10）が示すように、専門管理職と事務職の比率（16.0 % と 14.0 %）が

高い。ネブシェヒル市の職業構成をセンサスからみれば、専門管理職は11.9%，事務職は6.5%，販売職13.0%，サービス職13.9%，農業労働者6.6%であり、製造業就業者は39.4%となる（1985年センサス）。この市全体の専門管理職と事務職（11.9%と6.5%）に比較すれば、350 エブレル地区では専門管理職（16.0%）と事務職（14.0%）は高い。逆に、販売職とサービス職は著しく低く、農業労働者や製造業就業者も低い。このように350 エブレル地区は、教員などの専門管理職や事務職が集中する地区であるといえよう。

a) アンカラよりも構成比率が低い職業。販売職は、中都市トラブゾンの郊外地区バフチェジック地区と同様に最も低いし（4.0%，アンカラ9.5%），サービス職も著しく低い（8.0%，アンカラ25.7%）。その他雑業層も低い（28.0%，アンカラ31.1%）。

b) アンカラよりも構成比率が高い職業。専門管理職と事務職（双方の合計）は、トラブゾンの郊外地区でこの比率が高いバフチェジック地区（28.5%）より高く、調査地区の中で最も高い（30.0%，アンカラ12.2%）。また、市の平均よりも高い。製造業はアンカラよりは高いけれども、30%以下であり多くの地区より低い（28.0%，アンカラ16.2%）。このように350 エブレル地区は専門管理職と事務職が著しく多く、販売職やサービス職は著しく少ない。

#### (c) 地方町ビュンヤンの職業構成

地方町ビュンヤンにおいて、中心地区と郊外地区の職業構成は住民が高年齢（平均年齢50.5歳，47.9歳，第Ⅱ-3表参照）であり退職者も多く，第Ⅱ-12図-2（折れ線11と12）が示すように，その他雑業層が多い。

a) アンカラよりも構成比率が低い職種。サービス職は，アンカラの半分ほどと低い（12.5%，12.0%，アンカラ25.7%）。

b) アンカラより構成比率が高い職種。その他雑業層は地方町の二つの地区で高いし（41.7%，44.0%，アンカラ31.1%），また製造業就業者はほとんどアンカラと同じ比率である（16.7%，16.0%，アンカラ16.2%）。

c) アンカラと比較し中心地区と郊外地区で構成比率が相違する職種。

専門管理職と事務職（双方の合計）は中心地区でアンカラとほぼ同じであり、郊外地区で低い（12.6％，8.0％，アンカラ12.2％）。逆に、販売職は中心地区でアンカラより低く、郊外地区でアンカラより高い（8.3％，16.0％，アンカラ9.5％）。

## 第2節 初職構成と現職構成の変容

居住者の初職と現職の構成比率の相違をみていく。

(イ) アンカラにおいて、初職（折れ線1，以下同じ）と現職（折れ線2，以下同じ）でどのように相違が発生したのかを第Ⅱ－13図－1は示す。a) 現職比率が初職比率より高くなった職業（折れ線2が1の上，以下の他都市も同じ）は，専門管理職（0％から4.1％），事務職，販売職であり，ほぼ3％から4％増加し，その他雑業層（13.3％から31.1％）も増加した。高齢による退職者がでたことも，その他雑業層の増加をもたらした。これに対して，b) 現職比率が初職比率より低くなった（折れ線2が1の下，以下の他都市も同じ）職業は，一つはすでに述べた理由で製造業（36.0％から16.2％）であり，もう一つはサービス業（34.7％から25.7％）である。首都の都市下層民の居住地域において，伝統的な2業種である販売職とサービス業のうち，都市滞在につれて販売職は増えるがサービス職は減る。

(ロ) 地方大都市ガジアンテップの中心地区と郊外地区における初職と現職の相違を，第Ⅱ－13図－2と第Ⅱ－13図－3は示す。中心地区においては，a) 現職比率が初職比率より高くなった職業は，販売職（7.5％から17.9％）とその他雑業層である。首都と異なって地方大都市の中心地区においては，専門管理職と事務職は初職と変わらない（ともに2.5％から2.6％）。これに対して，b) 現職比率が初職比率より低くなった職業は，一つは製造業であり，もう一つはサービス業である。現職比率の低くなった職業は首都と同じ

である。

郊外地区において、a) 現職比率が初職比率より高くなった職業は、わずかの増加であるが、専門管理職（0%から3.4%）であり、販売職である。また、アンカラやガジアンテップの中心地区で急増したその他雑業層もわずかに増加したにとどまった（20.0%から24.1%）。これに対して、b) 現職比率が初職比率より低くなった職業は、製造業である。アンカラやガジアンテップの中心地区で現職比率が初職比率より低くなったサービス職は、郊外地区では減少していない（10.0%から10.3%）。地方大都市の郊外地区においては、職種構成の変化はわずかなものであるといえよう。

(ハ) 新興工業中大都市メルシンの3地区、郊外（農村風）地区セルジュク地区、準中心地区シテラル地区、東南部からの流入者が多い郊外地区デミルタシュ地区における初職と現職の相違を、第Ⅱ-13図-4、-5、-6が示す。

郊外（農村風）地区セルジュク地区において、a) 現職比率が初職比率より高くなった職業は、販売職（5.7%から11.4%）とその他雑業層である（5.7%から14.3%）。また、一般に現職比率が初職比率よりも高くなる専門管理職と事務職は、郊外（農村風）地区において事務職は変わらなかったけれども、専門管理職は減少した。b) 現職比率が初職比率より低くなった職業は、製造業とサービス業である。しかし、製造業における低下は、新興工業都市メルシンでは大きくはない（51.4%から45.7%）。

準中心地区シテラル地区において、a) 現職比率が初職比率より高くなった職業は、販売職とその他雑業層である。専門管理職と事務職はメルシンの準中心地区においても増加しなかった。b) 現職比率が初職比率より低くなった職業は、製造業（46.7%から36.7%）である。他の地区と異なり、シテラル地区ではサービス業の比率は低下してない（33.3%から33.3%）。サービス業は就業者の3分の1を吸収するこの水準は12地区の中で最も高い。

東南部地域からの流入者が多い郊外地区デミルタシュ地区では、a) 現職

比率が初職比率より高くなった職業は、販売職で著しく増加し（2.9％から17.1％）、その他雑業層でわずかに増加した。デミルタシュ地区では、他の地区と異なって、専門管理職と事務職（双方の合計）は変わらない（11.5％から11.4％）。b）現職比率が初職比率より低くなった職業は、大幅に減少したサービス業（20.0％から8.6％）である。新興工業都市のデミルタシュ地区では、12地区の中で唯一の例外として、製造業比率は変わっていない（42.9％から42.9％）。デミルタシュ地区では、現職比率で減らなかった製造業と、現職比率の増えたその他製造業販売職と販売職が、現在の主要な職業である。

(二) 中都市トラブゾンの3地区、中心地区ザファール地区、豊かな中心地区エセンテッペ地区、郊外地区バフチェジック地区の初職と現職の相違を、第Ⅱ－13図－7，－8，－9が示す。

中心地区ザファール地区では、a）現職比率が初職比率より高くなった職業は、急減した製造業を除く全ての職種で増加した。現職では増加した専門管理職と事務職（ともに0％から3.3％）、多くの地区におけるときと同様に、現職比率が増大した販売職やその他製造業である。他にザファール地区で増大した職業はサービス業である（6.9％から17.2％）。サービス職の現職比率が増大した地区は、同じトラブゾンのエセンテッペ地区と小都市ネブシェヒルの350エブレル地区にすぎない。b）現職比率が初職比率より低くなった職業は、すでに述べたように、急減した製造業である（65.5％から34.5％）。言い換えれば、現職では大幅な製造業離れと職業の多様化が生じたのである。

豊かな中心地区エセンテッペ地区では、a）現職比率が初職比率より高くなった職業は、専門管理職と事務職（双方の合計）である。ただし、専門管理職は変わらないで、事務職が増加した（0％から5.7％）。その他雑業層（8.8％から20.0％）でも増加した。エセンテッペ地区においては、すでに述べたように、例外的にサービス職で増加した（14.7％から22.9％）。b）現職比率が初職比率より低くなった職業は、大半の地区と同様に製造業である



(41.2%から31.4%)。他の地区では現職で増大したにもかかわらず、エセンテッペ地区では急減した職業に販売職がある(29.4%から17.1%)。その理由は、販売職の初職比率が例外的に高かったためといえよう。

郊外地区バフチェジック地区では、a) 現職比率が初職比率より高くなった職業は、ともに増大した専門管理職と事務職である。専門管理職としてはかなり増加し(8.6%から11.4%)、とくにこの現職比率はネブシェヒルの350エブレル地区(16.0%)に次ぐ高さである。また、事務職は著しく急増し(11.4%から17.1%)、この現職比率は調査12地区の中で最も高い。その他雑業層(17.1%から28.6%)や農業就業者も増大した(2.9%から5.7%)。専門管理職と事務職の高さが、郊外地区バフチェジック地区の特徴である。b) 現職比率が初職比率より低くなった職業は、多くの他の地区同様に販売職と製造業である。多くの地区で現職比率の増大した販売職は、郊外地区バフチェジック地区ではもともと重要な職種でなかったし、現職でも増加しなかった(2.9%から2.9%)。

(ハ) 小都市ネブシェヒルにおける350エブレル地区の初職と現職の相違を、第Ⅱ-13図-10が示す。350エブレル地区では、a) 現職比率が初職比率より高くなった職業は、その他雑業層である(8.0%から28.0%)。また、わずかに増えたサービス職である(6.0%から8.0%)。b) 現職比率が初職比率より低くなった職業は、専門管理職と事務職(双方の合計)である。ただし、専門管理職は変わらないで(16.0%から16.0%)、事務職が減少した(20.0%から14.0%)。トラブゾンのバフチェジック地区では、専門管理職と事務職の合計が現職比率で28.5%と高くなったのに対して、350エブレル地区ではこの比率が30.0%と低くなった。低くなったけれども、専門管理職と事務職は12地区のうちで最も高い比率を示し、この地区の特徴をなす。また、この地区では、他の地区と異なって販売職は増えないし重要な職種でもない(4.0%から4.0%)。

(ヘ) 地方町ビュンヤンにおける中心地区と郊外地区の初職と現職の相違を、第Ⅱ-13図-11、-12が示す。

地方町ビュンヤンの中心地区では、a) 現職比率が初職比率より高くなった職業は、著しく増大したその他雑業層（4.0％から41.7％）と、多くの地区と同様に増加した販売職である（0％から8.3％）。b) 現職比率が初職比率より低くなった職業は、製造業とサービス業である（16.0％から12.5％）。農業労働者も著しく減少した（28.0％から8.3％）。地方町においては農業労働者が初職で大きな比率を占め、現職では比率を低下させるのである。この傾向は、地方町の郊外地区においても認められる（8.0％から0％）。他の多くの地区において構成比率を高めた専門管理職と事務職は、地方町の中心地区ではほとんど増加していない（12.0％から12.5％）。専門管理職と事務職の増加しない傾向は、地方町の郊外地区においても認められる（12.0％から8.0％）。

郊外地区では、a) 現職比率が初職比率より高くなった職業は、著しく増えた、その他雑業層（12.0％から44.0％）と販売職である（4.0％から16.0％）。b) 現職比率が初職比率より低くなった職業は、他の地区と同様に製造業であり、すでに述べた専門管理職と事務職、農業労働者である。地方町の郊外地区の特徴として、都市滞在も職業構成をあまり変容させない。専門管理職や事務職を増加させることはなかったし、サービス職も変わらない（12.0％から12.0％）。

以上のように、初職と現職の変容は、都市規模によってかなりの共通性をもって進行するといえよう。

### 第3節 住民の希望する職業

希望する職業に関しても、都市ごとにまた地域ごとにいくつかの特徴がみられる。本人の職業として希望する職業、息子に希望する職業、娘に希望する職業をみることによって、どのような職業構成をトルコの都市下層民が求めているかが推定可能となる（質問表 質問16を参照）。さらにいえば、希望

する職業に都市下層民が転化できれば、都市滞在は都市下層民の満足度を高めて、労働意欲を高めると想定可能である（第Ⅱ部第8章参照）。

各地区の職業構成に関する、第Ⅱ-13図-1から第Ⅱ-13図-12のうち、折れ線3が本人の職業として希望する職業を示し、折れ線4が息子に希望する職業、折れ線5が娘に希望する職業を示す。

a) 本人の希望する職業を示す本人の職業希望線（折れ線3）は、いずれの地区においても、三つの山からなっている。専門管理職と事務職では、前者が希望されるため専門職が第1の山をなし、事務職が谷をなす。販売職とサービス職では、販売職が希望されるために第2の山をなし、サービス職が谷をなす。製造業とその他雑業層では、製造業が希望されるために製造業が第3の山をなし、その他雑業層が谷を形成する。本人の職業希望線は、それぞれの地区でそれぞれの三つの山の折れ線を描くのである。

b) 息子に希望する職業を示す息子の職業希望線（折れ線4）は、第Ⅱ-13-1図などからわかるように、本人の職業希望線の三つの山の線に、二つの変化をもたらす。第1には、専門管理職へ期待が高まって第1の山が著しく高くなることである。第2には、本人の職業として最も期待された販売職への期待が低下して、第2の高い山が低くなったり丘状に変わることである。

c) 娘に希望する職業を示す娘の職業希望線（折れ線5）は、専門管理職への期待が息子のとき以上に高くなり、また、その他雑業（調査地でたびたびあげられた主婦はここに入る）も高くなる。他の職業はあまり期待されないため、この折れ線はちょうど大文字のL字形に変わる。以下では、各地区ごとの三つの折れ線の実態をみよう。

(i) アンカラのチャルスカンラル地区において（第Ⅱ-12図-1参照）、a) 本人の職業として希望する職業では、専門管理職14.7%（これに対して事務職は7.3%）、販売職31.3%、製造業労働者12.7%が期待される。この三つの職業の現職比率（4.1%、9.5%、16.2%）を考慮すれば、自らの職業としては、製造業ではなくて、専門管理職と販売職に期待することが判明する。アンカラの本人の職業希望線の三つの山は、他の地区に比較すれば高くな

い。というのも、専門管理職の希望比率は、地方大都市ガジアンテップの2地区（10.0％，6.8％）に次いで12地区のなかで低い方であり、販売職の希望比率は最も低い（次いで低いのは中都市トラブゾンの中心都市ザファール地区33.9％）。また、製造業希望比率（12.7％）も、新興工業中大都市メルシンのデミルタシュ地区（11.7％），専門管理職と事務職の多い小都市ネブシェヒルの350エブレル地区（11.3％），地方町の2地区（6.4％，11.1％）に次いで低い方である。このような三つの希望職業比率が低い理由は、その他雑業層に分類される職業をあげる比率が多いためである（26.9％）。

b) 息子に希望する職業では、専門管理職が最も期待される（32.2％）。次いで、本人希望職業として高い比率を示したが、息子の職業としては著しく期待の低下した販売職（15.4％）となる。第3位が事務職であり（14.1％），製造業はさらに低い（12.7％）。息子の職業として製造業希望比率の低さ（12.7％）は、この比率の低い地区、すなわち中都市トラブゾンの豊かな中心地区エセンテッベ地区（12.9％）と専門職などの多いバフチェジック地区（10.8％），また、地方町の2地区（4.2％，11.6％）と同様に、息子の職業としても製造業は期待されていないことを示す。息子の希望職業線は、事務職が他地区よりも高く販売職の低い、この2業種間が平らになった左端の高い二つ山の線を描く。

c) 娘に希望する職業では、息子の職業以上に専門管理職が期待される（36.5％）。しかし、事務職は息子の職業としてほど期待されない（10.8％），販売職（0.7％）やサービス職はほとんど期待されない（0.7～2.7％）。娘の職業希望線は、典型的なL字形曲線を描く。

(ロ) ガジアンテップの中心地区（第Ⅱ-13図-2参照）において、a) 本人の職業として希望する職業では、あまり希望の高くない専門管理職（10.0％），大いに高い販売職（47.5％），やや高い製造業（18.8％）が期待される。本人の希望職業線は、第2の山である販売職で著しく突出し、第3の山である製造業でやや高い、三つ山の線を描く。

b) 息子に希望する職業では、アンカラからよりわずかに低く専門管理職

(30.4%), 同様にアンカラよりわずかに低く販売職 (12.7%), 逆に, アンカラより高く製造業 (20.3%) がそれぞれ期待される。販売職は, 本人の職業として期待された比率 (47.5%) より大幅に低く, 息子の職業として期待されていない。製造業は, 本人の職業として期待された比率と同じほどである。息子の希望職業線は, アンカラに比較して左端がやや低く右端の山が高くなった二つ山の線を描く。c) 娘に希望する職業では, 専門管理職 (23.4%) と事務職 (6.5%) が期待される。しかし, アンカラと異なり, 専門管理職が息子の職業以上に娘の職業として期待されることはない。事務職も同じことである。逆に, アンカラ以上に販売職 (2.6%, アンカラ 0.7%) や製造業 (7.8%, アンカラ 3.4%) が期待される。伝統的大都市ガジアンテップの中心地区では, 実業的な業種を娘の職業として期待する傾向がみられ (製造業やその他雑業など), 娘の職業希望線はアンカラよりも平たい L 字型曲線を描く。

ガジアンテップの郊外地区 (第Ⅱ-13図-3参照) においては, a) 本人の希望する職業として, 専門管理職 (6.8%), 最も高い販売職 (37.3%) も製造業 (13.6%) も中心地区ほどは期待されない。その他雑業層は中心地区より期待される (15.3%)。このため本人の職業希望線は, 中心地区に比較して三つの山がいずれも低い三つ山の線となる。b) 息子に希望する職業では, 最も高い専門管理職 (30.0%) と製造業 (20.3%) は, 中心地区と同じように期待される。息子の希望職業線は, 中心地区のものに似る。ただし, 販売職は中心地区よりやや低く, 逆に事務職はやや高く期待されるため, 息子の希望曲線はこの業種でアンカラのように丘状になる。これに対して, c) 娘に希望する職業は専門管理職が 40.0% と著しく高く, 中心地区よりも高い。逆に, 事務職はや製造業は中心地区ほど期待されない (3.3%, 5.0%)。主婦希望 (36.7%) も, 中心地区の比率よりわずかに高い。中心地区では娘の職業として期待する職業に多様化がみられたけれども, 郊外地区では専門職以外には娘の職業は容認されていない。このため娘の希望職業線は, 中心地区の平らな L 字曲線ではなくて, 典型的な L 字曲線を描く。

(ハ) メルシンの三つの地区 (第Ⅱ-13図-4, 5, 6参照) においては, a)

本人の希望する職業では、専門管理職が平均 30.2 % であり (30.3 %, 28.6 %, 31.7 %), アンカラ (14.7 %), 地方大都市ガジアンテップ (平均 13.4 %) に比較してとくに高い。しかし、製造業は平均 16.0 % で高くはない。本人の希望職業線は、各地区とも第 1 の山で著しく高い、三つの山の線を描くのである。

メルシンの三つの地区のうち、準中心地区シテラル地区で本人の職業として希望する職種では、第 1 の山をなす専門管理職 (28.6 %, 他の郊外 2 地区 30.0 %, 31.7 %) や第 2 の山をなす販売職 (37.5 %, 他の郊外 2 地区 39.4 %, 41.7 %) が他の 2 地区よりも低い。しかし、第 3 の山をなす製造業 (19.6 %, 他の郊外 2 地区 16.7 %, 11.7 %) は最も高い。三つの地区の中で準中心地区シテラル地区は、本人の職業として製造業への期待が高い地区である。逆に、東南部地域からの流入者が多く、また製造業の現職比率が最も低いデミルタシュ地区は、本人の職業として製造業への期待が低い地区である。郊外 (農村風) 地区は、これらの中間的な性格を示す。

b) 息子に希望する職業では、メルシンの三つの地区において専門管理職は平均 51.3 % (44.6 %, 60.3 %, 49.2 %) と他都市に比較し著しく高い (アンカラ 32.2 %, ガジアンテップ 30.2 %, トラブゾン 43.1 %, ただし、地方町ビュンヤン 52.6 %)。製造業も平均 21.1 % (23.1 %, 17.2 %, 23.1 %) で、最も高い。販売職ではアンカラやガジアンテップとほぼ同じ水準である (12.3 %, 12.1 %, 15.4 %)。このように新興工業都市メルシンでは、首都アンカラや地方大都市ガジアンテップより、息子の職業としても本人の希望する職業と同様に専門管理職、そして本人の希望する職業とは別に製造業が期待されている。逆に、事務職はあまり期待されていない (平均 2.1 %, アンカラ 14.1 %, ガジアンテップ 9.5 %, トラブゾン 3.3 % など)。こうして息子の職業希望線は、右端の山も著しく高く、左端も相対的に高い二つ山の曲線を描く。また、事務職が期待されないで低い谷を形成するために、中央に小さな山ができ三つの山の曲線に似る。

本人の職業としては製造業への期待が三つの地区では最も高かった準中心

地区シテラル地区では、息子の職業として製造業への期待は最も低く(17.2%),専門管理職への期待が最も高くなる(60.3%)。これに対して郊外(農村風)地区セルジュク地区では、息子の職業としては三つの地区の中で専門管理職への期待は低く、製造業への期待が高い。また、東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区では、息子の職業として販売職と製造業への期待が高い。

c) 三つの地区において、娘に希望する職業では専門管理職が平均51.8%(48.4%, 48.1%, 58.8%)と高く、アンカラやガジアンテップにおけるよりも期待されている(36.5%, 31.7%)。ただし、メルシンより規模の小さな都市ほど期待されることはない(トラブゾン62.1%, ネブシェヒル52.4%, 地方町ビュンヤン56.4%)。このため、娘の職業希望線は、メルシンの三つの地区で、首都や地方大都市に比較して、左端が高いL字曲線を描く。郊外(農村風)地区セルジュク地区は、販売職(4.8%)と製造業(14.5%)で他の地区より高く、他の11の地区よりもサービス職でも高く、緩やかなL字型を描く。これに対して、準中心地区シテラル地区は、販売職、製造業、また、サービス職でも、他の二つの地区の中間にある。東南部地域からの流入者の多いデミルタシュ地区は、専門管理職への期待が大いに高く、他の職業への期待が低いと典型的なL字曲線を示す。

(=) トラブゾンの三つの地区(第Ⅱ-13図-7, 8, 9参照)においては、  
a) 本人の職業として希望する職業では、第1の山を形成する専門管理職が平均25.5%であり(30.4%, 24.2%, 21.9%),メルシン(30.2%)よりも低い。第2の山を形成する製造業でも平均18.3%であり(23.2%, 16.1%, 15.6%),メルシン(16.0%)より高い。ただし、中央の山を形成する販売職では幅があって(33.9%, 50.0%, 40.6%),一様にはメルシンから低いとも高いともいえない。本人の希望職業線(折れ線3)は、トラブゾンの三つの地区で、第1の山がメルシンより低く、第3の山が高く、そして第2の山は高低の変化のある、三つの山の曲線を描く。

中心地区ザファール地区は、三つの地区のうち最も専門管理職(30.4%)

と販売職（23.2％）に期待し、豊かな中心地区エセンテッペ地区では販売職に大いに期待する（50.0％）。中都市トラブゾンの豊かな中心地区における販売職へのこうした期待は、地方大都市ガジアンテップの中心地区（48.8％）、小都市ネブシェヒルの350エブレル地区（47.5％）と同様に12地区のなかで最も高い。この地区の三つの山の曲線は、第2の山が著しく高い三つ山の線を描く。現職比率では専門管理職と事務職が多かった郊外バフチェジック地区は、専門管理職への期待（21.9％）は三つの地区では最も低い。また、販売職への期待がやや高い程度である。ただし、この地区では、三つの職業の他にサービス職や軍人など（6.2％、6.2％）への期待が高い。

b) 息子に希望する職業では、左端の山を形成する専門管理職は前述したように平均43.1％（49.1％、35.5％、44.6％）であり、メルシン（51.4％）より低い。また、右端の山を形成する製造業は平均18.3％（23.2％、16.1％、15.6％）であり、メルシン（16.0％）より高い。息子の職業希望線（折れ線4）は、トラブゾンの三つの地区で、左端の山がやや高く右端の山がメルシンより低い、二つの山の線を描く。中心地区ザファール地区では、専門管理職への期待が三つの地区で最も高く、製造業への期待も最も高い（20.0％、他の2地区は12.9％、15.6％）。この地区は、専門管理職と製造業を志向し、トラブゾンの地区では二つの山が最も高い曲線を描く。

豊かな中心地区エセンテッペ地区は専門管理職への期待が最も低く、製造業への期待も最も低い（12.9％）。この豊かな中心地区では、本人の希望する職業と同様に、息子の職業においても販売職への期待が著しく高い（38.7％、他の2地区は20.0％、21.5％）。本人の職業希望線は、本人の職業希望線に似た三つの山の線を描く。豊かなエセンテッペ地区と同様に本人の希望職として販売職に期待した伝統的工業大都市ガジアンテップの中心地区は、息子の職業としては販売職に期待せず（12.7％）、製造業（20.3％）に期待していた。これに対して、豊かなエセンテッペ地区は、本人の職業としても息子の職業としても販売職に期待するのである。

c) 娘に期待する職業では、専門管理職が平均62.1％（67.3％、56.4％、



62.7%)であり、メルシン(51.8%)に比較して著しく高い。製造業は平均7.7%(3.8%, 9.1%, 10.2%)であり、メルシン(9.4%)よりわずかに低い。販売職はメルシンに比較して著しく低く、中心2地区では存在しない(0%, 0%, 1.7%)。中都市以下の都市では娘に希望する職業が専門管理職に集中する。娘の職業希望職業線(折れ線5)は、3地区ともメルシンよりも典型的なL字曲線を示す。また、トラブゾンでは娘に希望する職業として主婦をあげる声は平均10.3%(11.5%, 10.9%, 8.5%)であり、メルシンより低い(17.4%)。とくに、専門管理職の多い郊外バフチェジック地区では、そうした声は最も低いのである。

(※) ネブシェヒルの350エブレル地区において(第II-13図-10参照)、a) 本人の希望する職業では、第1の山を形成する専門管理職は30.0%であり、地方大都市ガジアンテップや新興工業都市メルシンの各地区とほぼ同じ水準にある。第2の山を形成する販売職はすでに述べたように、最も高い水準にある(47.5%)。しかし、第3の山を形成する製造業は、次に述べる地方町の2地区と同様に最も低い(11.3%)。現職比率で専門管理職の高い350エブレル地区では、本人の希望職業線は、中央の販売職の山が高くて、製造業の山が著しく低い三つの山の曲線となる。

b) 息子に希望する職業では、専門管理職、販売職、製造業の順に期待され(46.1%, 30.3%, 13.2%)、息子の職業希望線は左端は高いが、右端の山をなす製造業でなくて、中央の販売職が高くなる、個人の希望職業線に似た三つの山の曲線となる。現職比率で専門管理職と事務職の多いトラブゾンの郊外地区バフチェジック地区(44.6%, 21.5%, 10.8%)に比較すると、とくに販売職で高い。

c) 娘に希望する職業では、専門管理職が平均52.0%であり(60.4%, 46.5%)、メルシンの平均(51.8%)とほぼ同じである。また、事務職も高い(9.5%)。販売職、製造職は低く、娘の希望職業線は典型的なL字曲線を描く。しかも、L字の右端にあたる主婦希望比率(28.6%)は、新興工業都市メルシン(17.4%)や中都市トラブゾン(10.3%)、あるいは地方町ビュンヤ

ン(9.0%)よりも高く、この比率の高いアンカラ(35.1%)や地方大都市ガジアンテップ(35.0%)に次ぐ高さである。

(ハ) 地方町ビュンヤンでは、a) 本人の希望する職業(第Ⅱ-13図-11、-12参照)では、第1の山である専門管理職は中心地区では12地区の中でも最も高い(44.7%)が、郊外地区では高くはない(26.7%、第7位)。第2の山である販売職は中心地区では低い(34.0%)が、郊外地区では高い(44.4%)。製造業はともに、高くはない(14.9%、11.1%)。中心地区では第1の山である専門管理職が高く、郊外地区では第2の山である販売職で高くなった三つの山の曲線を同じように描く。他の地区に比較して製造業希望比率は低く、本人の職業として製造業は期待されていない。

b) 息子に希望する職業では、中心地区では専門管理職が平均52.6%(56.3%、郊外地区48.8%)と他都市より高い。逆に、製造業への期待は低い(4.2%、郊外地区11.6%)。息子の希望職業線の左端は最も高いが、右端の山をなす製造業は最も低い二つ山の線を描く。中心地区における製造業への期待(4.2%)は、他の地区に比較して最も低い水準にあり、地方町では製造業は息子の職業として期待されていない。

c) 娘に希望する職業では、専門職への期待は中心地区で強い(60.4%、郊外地区46.5%)。中心地区では製造業への期待も12地区で最も高く(16.7%、郊外地区11.6%)、郊外地区でもメルシンの郊外(農村風)地区セルジュク地区に次いで第3位である。娘の希望職業線は、中心地区では右端の製造業とその他雑業層で他の地区よりも高いため、L字の右端で山を形成するL字曲線を描くし、郊外地区では製造業だけでなくその他雑業層も高く(6.3%、11.6%)、右端が丘状になったL字曲線を描く。中心地区ビュンヤンが、有名なカーベット織り地域であることが、地方町であるにもかかわらず女性の製造業就業を容認するのである。

〔注〕 \_\_\_\_\_

- (1) 各都市の職業構成については, State Institute of Statistics, 20. 10. 1985, *Census of Population, Social and Economic Characteristics of Population*, 各州版のうち州都の項をビュンヤン以外は利用することが可能である。